

原著論文

問題を解決する学習において「デザイン思考」を活用することの有用性を探る ～総合的な学習（探究）の時間での活用を想定して～

加 藤 裕 之

北里大学理学部

要旨

筆者が担当している「特別活動及び総合的な学習の時間指導論」において、アメリカのスタンフォード大学のビジネス・スクールが発祥と言われている、「デザイン思考」を活用し、一個人が抱えている問題を解決する学習に取り組ませた。そのときの学生の学習状況から、問題を解決する学習において「デザイン思考」を活用することの有用性を探り、総合的な学習（探究）の時間での活用の可能性を考察した。

「デザイン思考」を活用して問題を解決する学習に取り組んだ学生の振り返りから、次のような有用性を見だし、総合的な学習（探究）の時間で活用する価値を認識することができた。

- ・ 5つのステップが明解で取り組みやすく、課題解決能力の育成が期待できる。
- ・ 日常生活で問題を解決する際に、活用できる。
- ・ 提供された問題に関わる事実を分析して解釈することで問題に内包された真の課題を設定できる。
- ・ 既成概念にとらわれない自由な発想でアイデアを出し合い精査することで創造力を育める。
- ・ 個から全体を考えるという発想を身に付けることができる。

キーワード：問題を解決する学習 探究的な学習 探究の過程 デザイン思考 ステップ 有用性
ターゲット（問題を提供する人） インサイト（本当の願いや困りごとに係る課題）

はじめに

平成29年、30年に告示された学習指導要領が各学校段階で全面実施されてから数年が経過した。学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努めることが明記され、単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重視された。年間授業時数を鑑みると、各教科において、習得・活用に関する学習活動は計画するものの、探究については二の足を踏む教師が多いのではないか。前回（平成20年、21年に告示）の改訂で、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質

や能力を育成することが総合的な学習の時間の目標として掲げられ、探究的な学習を実施するためのプロセスが明示された。しかし、筆者が認識する限り、中学校では行事の準備に当てられたり、体験ありきの職場体験を実施したりすることが多く、総合的な学習の時間の目標である、よりよく問題を解決する資質や能力の育成をめざし、探究的な学習に取り組むことが教育現場の課題になっているように思われる。

一方、現行の学習指導要領において、高等学校では、探究的な活動をより重視する視点から位置付けを明確化するため、総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に改変されるなど、探究的な学習を通して問題解決能力を育む必要性が高まっている。高等学校における、実施状況を捉えているわけではないが、指導者自身が探究的な学習に取り組んだ経験が少なく、教科書がない上に、生徒が見いだした解決すべき課題は多岐にわたるため、指導や支援の方向性を見通すことが困難である。

アメリカのスタンフォード大学のビジネス・スクールが発祥と言われている、「デザイン思考」を活用することで、問題から見いだした課題を解決するステップを、教師も生徒も見通しつつ学習を進めることが可能になる。筆者が担当する講座で実践した際の、学生の反応を基に、問題を解決する学習において「デザイン思考」を活用することの有用性を探っていきたい。

1 総合的な学習の時間における探究の過程と「デザイン思考」を活用した学習の流れ

(1) 総合的な学習の時間における探究の過程

「(中学校編) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」には、「探究的な学習とするためには、学習過程が次のようになることが重要である」¹

と述べられている。「①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり

収集したりする③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する」²これらの学習過程を額面通り受け取るとしたら、②【情報の収集】において、実験や観察、調査等で生徒が自分の考えを検証する活動を行わない限り、調べ学習の域を出ることはない。

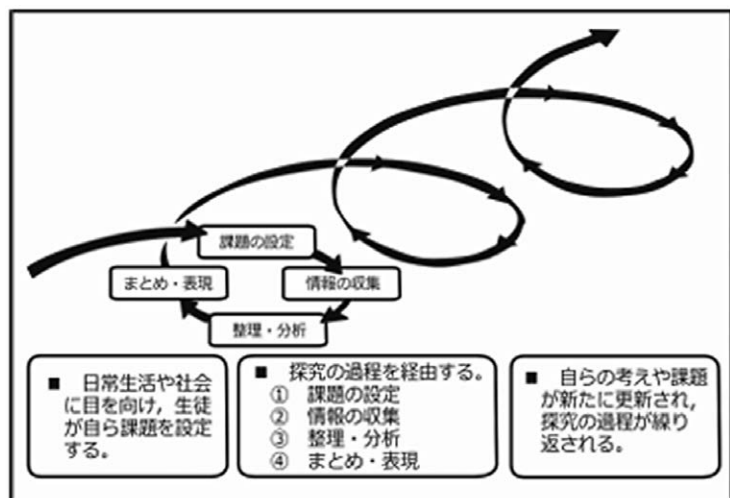


図1 探究的な学習における生徒の学習の姿³

(2) 「デザイン思考」を活用した学習の流れ

デザイン思考を活用した学習過程は5つのステップで構成されている。「①【さぐる】さまざまな情報を調べて、現状がどうなっているかをさぐる②【きづく】現状を踏まえた上で、本当の問題にきづく③【ひらめく】きづいた問題を解決するアイデアをひらめく④【つくる】ひらめいたアイデアを形（プロトタイプ）にする⑤【ためす】プロトタイプをためしてみても本当にうまくいくかためしてみる」⁴

一見すると、総合的な学習の時間における探究の過程に似ているように思えるが、異なる点がいくつか見られる。まず、課題を設定する際に吟味する点である。現状を踏まえた上で、本当の課題（インサイト）は何かを吟味するステップが設けられている。以後の問題解決のプロセスを意義あるものにするために欠くことができない重要なステップである。次に、課題を解決するアイデアを熟考するステップが設けられている。さらには、アイデアを形にするステップが設けられている。これらの2つのステップを踏むことで、デザイン思考を活用した学習が、単なる調べ学習に留まることはない。また、形にしたアイデアを試すステップを踏むことで改善点を見いだすことになり、自らのアイデアに執着すればするほど改善するためのアイデアを試したくなる。このように、行きつ戻りつ、問題の解決に向けて学習が進んでいくことになる。

2 個人の問題を解決する

デザイン思考を活用して問題を解決する学習において、解決すべき問題として対象とするのは、一個人の願いや困りごとである。一見すると、欲求や欲望とも思えるような問題を解決対象とし、現状を調査し、分析・解釈することで、本当の課題を見いだしていく。核となる本当の願いや困りごとに気付けるかどうかで、学習の質が決まる。デザイン思考は、商品開発に活用されると聞く。以前は、一人でも多くの消費者に支持される商品の開発に尽力したそうである。今では、万人に受け入れられる商品は飽和状態にあり、特定の消費者に支持される商品が不特定多数に受け入れられ、ヒット商品につながるという。

教育の世界に目を転じると、我が国の教育は従来から個人より集団を重んじる傾向にある。特定の一個人よりも一人でも多くの集団に幸福をもたらすことを是としてきた。多様性、多様な価値観を尊重する現代社会においては集団に重きを置いた見方から脱却する必要があるのではなかろうか。その突破口となるのが、「デザイン思考」を活用し問題を解決する学習である。個人の問題を解決することは、一人の幸せを追求することになる。今後、不確実な時代を生き抜く上で、自己を見失わず、自己の幸せを追求するための大切な見方を学ぶことになる。そして、自己の幸せを追求することが社会全体の幸せにつながれば、学習の成果としていうことはない。

3 「デザイン思考」を活用した問題解決学習の試行～総合的な学習の時間を想定して～

筆者が担当する「特別活動及び総合的な学習の時間指導論」において、次に示すような計画で、デザイン思考を活用して問題を解決する学習に取り組ませ、デザイン思考の有用性を探った。まず、「ミニ探究」の時間を設け、デザイン思考とはどのような思考様式で、それをどのように活用して問題を解決していくかについて、株式会社CURIO SCHOOL大門俊介氏にご指導いただいた。その後、「本探究」として、コンビニエンスストアの店員に問題を提供してもらい、解決に当たらせた。

(1) 単元の目標

- ①問題を解決する学習の過程において、見いだした課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、問題を解決する際にデザイン思考を活用するよさを理解する。
- ②提示された問題に関わる情報を集め、分析・解釈して、本当の問題に気づき、課題（インサイト）を立て、課題を解決する方法を見いだして試し、一連の過程をまとめ、表現する。
- ③問題を解決する学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの意見や考えのよさを生かしながら課題を解決し、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考を活用した問題解決のステップ及びそのよさを理解している。 ・必要に応じ、インタビュー等の計画を立て、知りたい内容を聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した問題に関わる情報を分析・解釈して本当の問題に気づき、課題（インサイト）を立てている。 ・様々な視点から自由な発想で解決策を考え、最も有効な策を見いだしている。 ・問題解決の過程をまとめ、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に進んで取り組もうとしている。 ・自他の意見や考えのよさを生かしながら課題を解決しようとしている。 ・問題解決の過程をふりかえり、次の計画に生かそうとしている。

(3) 単元の指導計画（7時間扱い）※1時間は90分

時間	○学習のねらい・学習活動	◎評価規準〔評価方法〕・指導上の留意点
2	<p>ミニ探究（株式会社CURIO SCHOOL大門俊介氏の指導による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究学習とデザイン思考についての説明を聞く。 <p>○「通学の困りごと」という問題の解決にデザイン思考を活用して取り組む。</p>	<p>◎デザイン思考を活用した問題解決のステップ及びそのよさを理解している。（知識・技能）〔行動観察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CURIO SCHOOL作成のテキストに基づいてデザイン思考を活用した問題解決の流れを体験させる。

	<p>①さぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを組んだ相手の「通学時の困りごと」について具体的な場面、願いや困りごとをインタビューして聞き出す。 ・インタビューして聞き取った内容を分析・解釈する。 <p>②きづく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を踏まえた上で、本当の願いや困りごとから課題（インサイト）を見いだす。 <p>③ひらめく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インサイトを叶える、解決するアイデアを1つでも多くひねり出す。 <p>④つくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプ（アイデアを見える化したモノやコト）を作り、アイデアを形にする。 <p>⑤ためす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったプロトタイプがうまくいくかためす。 ・相手にフィードバックをもらう。 ・フィードバックを受けて、次に取り組むことを考え、アイデアを改良していく。 	<p>◎自分が知りたい内容を考え質問している。(技能、思考)〔行動観察、ワークシート〕</p> <p>◎集めた情報を相手の立場から分析・解釈している。(思考)〔ワークシート〕</p> <p>◎本当の願いや困りごとを踏まえ、課題を設定している。(思考)〔ワークシート〕</p> <p>◎課題の解決策を具体的に表している。(思考、表現)〔ワークシート〕</p> <p>◎解決策を試し、その結果をもとに解決策を改善しようとしている。(態度)〔行動観察、ワークシート〕</p>
5	<p>本探究</p> <p>○本学のL1号館にあるコンビニエンスストアでは、「商品を陳列するスペースが足りない。人手不足などの問題があり、どのようにしてお客様に満足していただけるか、頭を悩ませている。」ことから、解決をめざす問題を「学生の皆様に満足して気持ちよく、ご利用いただける店舗にするにはどのようにしたらよいでしょうか」とし、学生に提示した。</p> <p>○主体的対話的で深い学びをめざし、4～5人のグループを編成して問題の解決に当たらせることにした。</p> <p>○問題の提供者であるコンビニエンスストアの店員をターゲットにして問題の解決を図ることはもちろん、日常的に利用している学生をターゲットにして問題の解決を図ってもよいことにした。</p> <p>①さぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、誰をターゲットにするか、決める。 	<p>・グループで問題の解決に当たることで協働的な学びになるように支援する。</p>

- ・ターゲットに質問する内容を考える。
- ・ターゲットに質問する。
- ・ターゲットの行動を観察する。

・インタビューや行動観察で把握した事実をターゲットの立場で分析・解釈し、本当の願いや困りごとに迫る。

②きづく

- ・本人も意識していない心の核心部分を見いだし、課題（インサイト）として設定する。

③ひらめく

- ・課題を解決するアイデアを1つでも多く出し合う。
- ・アイデアが出尽くしたら、実現性を考慮しつつ、斬新な解決策を1つ選択する。

④つくる

- ・選択した解決策に名前を付ける。
- ・解決策をできるだけ具体的に表現する。

⑤ためす

- ・ターゲットに見いだした課題と解決策を伝える。必要に応じて解決策を体験してもらう。
- ・必ず評価を聞く。その際、表面的な評価や感想ではなく、心の核心をつく課題になっているか、解決策が課題を解決するための有効な手立てになっているかという視点で評価を求める。
- ・ターゲットから得た評価に基づいて、次に取り組むことを検討する。

⑥中間発表

- ・CURIO SCHOOL大門俊介氏に、これまでの取り組み状況を仮発表する。
- ・大門氏の評価を踏まえて取組を修正する。

⑦プロセスのまとめ

- ・ワークシートに問題解決の過程が見える化し振り返る。

◎自分たちが知りたい内容を考え質問している。(技能、思考)〔行動観察、ワークシート〕

- ・必要に応じて講義中にコンビニエンスストアの店員に質問したり店舗の様子を観察したりすることを認める。

◎集めた情報を相手の立場から分析・解釈している。(思考)〔ワークシート〕

◎本当の願いや困りごとを踏まえ、課題を設定している。(思考)〔ワークシート〕

◎課題の解決策を具体的に表している。(思考、表現)〔ワークシート〕

- ・自由な発想からアイデアを出させる。
- ・耳を疑うようなアイデアを含め、すべてのアイデアを受け止めるように指導する。

◎自他の意見や考えのよさを生かしながら協働して課題を解決しようとしている。(態度)〔行動観察、ワークシート〕

- ・解決策が具体的にイメージできるような名前を付けるように指導する。
- ・解決策が「モノ」の場合は形として表現しやすいが、「コト」の場合も形あるものとして表すように指導する。

◎解決策を試し、その結果をもとに解決策を改善しようとしている。(態度)〔行動観察、ワークシート〕

- ・課題がターゲットの願いや困りごととずれていた場合は、インタビューや行動観察をし直して改めて課題を設定する。解決策を評価されなかった場合には解決策を考え直す。解決策を理解してもらえなかった場合には解決策が見える化したものに作り直すなどの助言を与える。

- ・CURIO SCHOOL大門俊介氏に、デザイン思考を活用した問題解決という視点から取り組み状況を評価してもらう。

- ・振り返りをした際に、改善点が顕在化した場合には、必ず修正するように促す。

<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、前のステップに戻る。 ・発表（8分以内）の準備（形式、役割分担等）をする。 ・自分たちで考えた形式で、問題解決の過程の状況がわかるように発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表には次の内容を盛り込むように指導する。 ①ターゲット ②インタビューや行動観察（事実）からどのような願いや困りごとが潜んでいると解釈したのか ③ターゲットの核心を突く課題 ④課題を解決するアイデアの内容 ⑤アイデアを試した反応 ⑥今後の展望 ◎自分たちが取り組んだ過程を適切に表現している。（表現）〔行動観察〕
--	---

（４）講座を受講した学生

- ①理学部３年 28名
- ②海洋生命科学部３年 17名
- ③看護学部３年 9名（ミニ探究のみ受講）

（５）問題を解決する学習においてデザイン思考を活用することの有用性

- ①ミニ探究を実施した際の学生の振り返りから
 - ・デザイン思考から課題解決の能力を身に付けることは、楽しく進められるので、方法として良いと思いました。（理学部）
 - ・日常生活でも自分の困っていることを解決するのに使えと感じました。また、アイデアには正解、不正解がないことに気づくことができました。もっと頭を柔らかくしていきたいと思いました。（理学部）
 - ・相手の抱える悩みから、本当の悩み、隠れている悩みを探すことは実生活にも生かせると思うため、意識していきたい。（理学部）
 - ・取り組む内容やプロセスが具体的なので、学校の授業のみならず、日常生活でも取り入れることができるのではないかと感じた。（理学部）
 - ・相手が何を求めているのかを正しく理解し、どのような支援をすべきかを考える過程は、生徒指導においても重要な考え方だと思う。また、生徒が考えを自由にふくらませながら好きなように考えさせるという方針も生徒の自己実現の際に重要な考え方だった。（海洋生命科学部）
 - ・今までは事実からすぐに解決策や叶えたいことを考えるということをしてきたので、自分で解釈して、そこからインサイトを考えることでたくさんのアイデアが浮かぶのではないかと感じた。（海洋生命科学部）
 - ・ターゲットの言葉から、ターゲットの発言の背景をつむいでいたり、ターゲットの

本当の願い、根底にある願いを想像したりしていくということが大切であることがわかった。たくさんの違う種類の悩みを解釈していくことで、その人にとっての一つの問題が見えてくるのが面白かったし、他の課題にも応用できそうだったと思った。複数、大衆に向けたものではなく、特定の個人に対する考えを練ることで、新しい、面白いアイデアが出てくることがわかった。(看護学部)

- ・ターゲットの困りごとはターゲットの願いの裏返しであり、あくまで本質やインサイトは別のところにある場合があるということを理解することができた。だからこそ、困りごとをそのまま受け止め解決を考えるのではなく、様々な解釈をし、本当はこうなのではと考えることが大切なのだと学んだ。また、解釈をきっとこうだろうではなく、この考え方もあるのかもしれないということの積み重ねで本質が見えてくるのではないかとも感じた。今までは現実的ではないから言いにくいと思っていたことも、「アイデアとして発して良いのだ。伝えて良いのだ。」と思うことができ、アイデアを出してから現実での可能性を考えることで、より柔軟な発想、新しい発想につながると考えた。(看護学部)
- ・その人が言っていることがすべてではないことや、その困りごとの裏にある本当の願望を汲み取ることは看護の現場でも応用できる思考プロセスなので実践してみようと思った。また、ルールや今ある何かにとらわれてしまうことがアイデアの限界を決めてしまうんだと感じた。今あることを掛け合わせて新しい何かを考えたり、もっと違う視点に立って物事を見たりして、新しいアイデアを出すことが大切だと気づいた。(看護学部)
- ・ターゲットから聞いたことをそのまま課題として設定せず、一度自分の中で解釈してからインサイトを考えるということは楽しかったし、より深い考察ができていのように感じられた。自分のアイデアを1回考えて終わりではなく、他者からの批評を聞き、何度も考え直すことはよりインサイトに合う解決策になるし、モノやコトを作り上げる上で欠かせない過程だと感じた。(看護学部)
- ・奇想天外なアイデアだとしても、そのアイデアをどうすれば実現可能であるか考えることで、また新しいアイデアが生まれることを学んだ。柔軟な思考を持つことで新たな視点が生まれ、発想が膨らむことがわかった。(看護学部)

②ミニ探究の振り返りからデザイン思考を活用することの有用性を探る

2時間という限られた時間での取り組みであったが、学生はデザイン思考に興味を持ち意欲的に取り組み、デザイン思考を活用して問題を解決するステップを実践的に理解した。また、本当の願いや困りごとから課題を見いだすことの重要性や課題を解決するアイデアの創造の仕方など、デザイン思考を活用する際の有用性を見いだしていた。

具体性に欠ける表現ではあるが、「デザイン思考を活用して問題を解決する活動は楽し

く、課題解決能力を身に付けることができる」という指摘があった。本来、考えるという営みは高次の楽しさを感じることができる活動である。デザイン思考を活用して問題を解決する学習の中心は、思考を巡らすことであり、学習本来の楽しさを感じながら課題解決能力を育めるという有用性があるといえよう。

例示した振り返りに限らず、多くの学生が、「日常生活で自分や相手が抱えている悩みから、本当の悩み、隠れている悩みを見いだし解決することに生かせる」と指摘していた。看護学部学生からは、「看護の現場でも応用できる思考プロセスである」という指摘を受けた。学んだことを自分の生き方に生かせることは特筆すべき有用性である。課題を解決するにあたり、インタビューや行動観察等で得られた事実を捉えて解決策を考えるのではなく、様々な視点から事実を分析・解釈して本当の悩み、隠れている悩みを見いだすという活動に価値を見いだしている学生が多数見られた。聞きたいことを的確にインタビューしたり、徹底的に行動を観察したりして事実を積み重ね、それらをターゲットの立場に立ち、様々な視点から解釈することで本当の願いごとや困りごとから課題（インサイト）を見いだすことは、ターゲットの問題を解決する上で極めて大切な活動である。そのことを「きづく」というステップで経験できることが、デザイン思考を活用して問題を解決する活動の特徴であり、その経験が日常生活で応用できるという認識につながっていると思われる。

また、「ひらめく」という解決策を考えるステップでは、一つでも多くの解決策を創造することが求められる。二つ三つのアイデアを創造することは容易であるが、さらなるアイデアとなると頭を抱え込み、アイデアを書き記す手が止まってしまうことが多い。「このアイデアは認められないという制約はない」「出されたアイデアはすべて受け止める」と声をかけると、「本当によいのか」と疑心暗鬼に満ちた眼で筆者を見ながら、再びアイデアを書き始める様子が見受けられた。「常識に照らして考えを述べる」という暗黙の制約に支配されているのかもしれない。もちろん、課題とはまったく関係のない考えを妄想することは不適切である。一方で、制約のない自由な発想から創造性に富んだアイデアが生まれる。「ルールや今ある何かにとらわれてしまうことがアイデアの限界を決めてしまうんだなと感じた」「今までは現実的ではないから言いにくいと思っていたことも、『アイデアとして発して良いのだ。伝えて良いのだ。』と思うことができ、アイデアを出してから現実での可能性を考えることで、より柔軟な発想、新しい発想につながると考えた」という学生の振り返りから、デザイン思考を活用することは豊かな発想に導き、創造性を育むことにつながるといえよう。学校教育では、今後、生徒に学習の主導権を渡すことが増えていくと考えられる。デザイン思考を活用して問題を解決するステップにおいて、自由な発想からインサイトを解決するアイデアを創造する経験を積ませることは重要である。

わずか2時間という短時間で充実した学びが展開できた要因として、洗練された問題解決のステップと各ステップで取り組む内容を簡潔に示したワークシートの存在が挙げられ

る。一般的に、ワークシートには、活用の仕方によっては弊害もあるが、株式会社 CURIO SCHOOLが作成したワークシートは初めてデザイン思考を活用する者にとっても、その特徴を損なわず、問題解決に取り組める形式になっている。次の図2、3に「①さぐる」「②きづく」及び「③ひらめく」のステップで活用したワークシートを示す。なお、本探究では、問題をコンビニエンスストアの店員に提供してもらったため、混乱を防ぐために、ワークシートに記載されている「ユーザー」を「ターゲット」と読み変えて学習を展開した。

① さぐる ② きづく

ユーザー	
インタビュー・行動観察 (事実)	願いごと・困りごと (解釈)
インサイト	

© CURIO SCHOOL, Inc. 5

図2 「さぐる」「きづく」のワークシート

③ ひらめく

	ユーザーのインサイト	

© CURIO SCHOOL, Inc. 6

図3 「ひらめく」のワークシート

③本探究を実施した際の学生の振り返りから

- ・デザイン思考を活用して問題の解決をめざす上で一番大切なのは、試した後の改善策、今後の展望について考えることであると感じた。このことは生徒が見通しを持って活動する能力の向上につながると思う。(理学部)
- ・問題の解決に向けて、考えを練り続けていく過程に面白さを感じた。(理学部)
- ・実際にアイデアを形にして、再度インサイトを検討した。店内の配置や配線の制限はあったものの、その中でできることはあって、それをデザイン思考が引き出しているのだと実感できた。(理学部)
- ・大門さんに中間発表したときに、ターゲットを一人に絞ることで独創性がでるとアドバイスもらった。デザイン思考の本質として、ターゲットを絞って考えることの利点を生かせていないと感じた。(理学部)
- ・大門さんからのアドバイスを聞いて、ターゲットのインサイトを変えました。ターゲットを具体的な一人に絞ることで、その人がよりよく利用できるようになり、他の大勢の人もそれが可能になると思った。(理学部)
- ・今までは個人ではなく、団体を大切にする教育だったが、デザイン思考を活用するにあたり、個人が大切という考え方に驚いた。(理学部)
- ・ターゲットが広いためにインサイトが平均的になってしまっていた。この問題を解決するためには、対象をヘビーユーザーに絞ることでインサイトが明らかになり、すべ

きことが見えるようになることを学んだ。(海洋生命科学部)

- ・今まで視野を広げ、みんなのことを考えるように言われてきたので、個人にフォーカスしてその人だけのことを考えることに少し違和感があったが、社会ではこのような考え方も大切だと知った。(海洋生命科学部)
- ・ターゲット一人でも結果的には複数人の問題解決につながることを知った。(海洋生命科学部)

④本探究の振り返りからデザイン思考を活用することの有用性を探る

事前に実践したミニ探究では、看護学部の一の学生が指摘しただけであったが、本探究を経験した多くの学生が「デザイン思考の本質はターゲットを一人に絞って考える」ことであり、「特定の個人のインサイトに対する解決策を練ることで、新しい、面白いアイデアを発想することができ、その解決策は大衆の課題を解決することにつながる」ことを指摘した。学生の学習状況を観察していると、どのグループもターゲットである一個人の問題を解決するためにデザイン思考を活用し、解決のステップを重ねてきたにもかかわらず、ターゲットのインサイトを解決するアイデアが固まった段階で、第三者にアイデアを試し評価を得て改善し、解決策の一般化を図ろうとするグループがいくつか見られた。ターゲット以外の第三者に評価を求めることは、ターゲットではない第三者の願いを反映させることになってしまう。実際に、中間発表で大門氏にターゲットがぶれていることを指摘され、慌てて第三者の評価を得て改善する前の解決策に戻したり、ターゲットのインサイトを見直したりするグループが見られた。一人のターゲットに焦点を当て、問題の解決に取り組み始めても、やがて複数人にターゲットが広がってしまうのは、「今までは個人ではなく、団体を大切に教育だったが、デザイン思考を活用するにあたり、個人が大切という考え方に驚いた」、あるいは「今まで視野を広げ、みんなのことを考えるというように言われてきたので、個人にフォーカスしてその人だけのことを考えることに少し違和感があった」と学生が振り返っているように、これまで受けてきた教育の影響であると考えられる。今後は従前から大切にされてきた「全体から個を考える」ことに加え、「個から全体を考える」という発想法を身に付けさせることも必要ではないか。そのような発想法を身に付けられることも、デザイン思考を活用することの有用性といえよう。

「見通しを持って活動する能力の向上につながる」という有用性を指摘する学生もいた。生徒も指導者も、何をどのように進めればよいか見通しを持てなければ、学習が頓挫してしまう。前述したように、デザイン思考を活用して問題を解決するステップは明確で、ワークシートを見ればどのように取り組めばよいかわかるようになっている。問題から課題を見だし、課題を解決するアイデアを練り、アイデアを実際に試し、評価を得て改善するという一連の活動に見通しを持って取り組めば、一定程度の満足感や充実感も得られる。デザイン思考を活用し、見通しを持って問題解決にあたることには大きな意義がある。

4 総合的な学習(探究)の時間においてデザイン思考を活用して問題を解決する価値

デザイン思考を活用して問題の解決を図る取組の特徴は、一個人の願いや困りごとを問題とすることである。しかしながら、練り上げた解決策は一個人にとどまらず、不特定多数の願いや困りごとを解決することにつながる。総合的な学習の時間では、実社会や実生活の中から課題を見いだす。総合的な探究の時間では、実社会や実生活と自己との関わりから課題を見いだすとしている。いずれにせよ、もとをただせば、見いだした課題を抱えているのは個人である。

総合的な学習の時間の目標は、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することであり、総合的な探究の時間の目標は、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することである。今回、見いだされた、デザイン思考を活用する有用性は、学習者をそれらの目標に導くと考えられる。

参考文献

- 1 文部科学省(2022)『(中学校編)今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』
- 2 前掲書1
- 3 前掲書1
- 4 CUR!O SCHOOL(2024)『北里大学授業 デザイン思考基礎編』
- 5 前掲書4
- 6 前掲書4